

令和5年度 事務部 経営方針

令和5年4月
市民病院事務部長 吉田 ヒロミ

1 部・室の基本方針

<p>(1) 部の組織目標</p>	<p>(2) 「まちづくり構想 福知山」で掲げる基本政策・施策の実現、及び行政改革大綱 2022-2026 の取組推進に向けた部内の運営方針</p>
<p>中丹地域の中核病院として</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 医師・看護師等医療スタッフの継続的確保 ② 医療環境や患者ニーズに対応した運営体制と施設・設備の充実 ③ 良質で質の高い医療サービスの提供による収入確保 ④ 事業の合理的運営による費用の削減・抑制 ⑤ 本院と分院の連携強化及び地域医療連携の推進 	<p>○市民病院における高度急性期医療・急性期医療・回復期医療のさらなる充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急医療、がん診療、災害医療、周産期医療など市民病院が担っている高度急性期医療・急性期医療に対し、医療従事者の確保や、高度医療機器の導入・更新などを行う。 ・急性期を脱した患者に対し、さらに充実したりハビリを中心とする回復期医療を提供する。 <p>○診療情報システム（電子カルテ）の更新を迎える令和6年1月に向けて、院内での協議を進める。新システムへ移行することによって医療分野におけるDX化をさらに進化させ、スムーズな受診の流れや待ち時間の短縮など、患者（市民）へのサービス向上につなげる。</p>

2 令和5年度の重点目標

No	重点目標	現状認識（重点目標の背景にある現状と課題、社会の動向など）	取組内容及び成果指標	達成状況（年度末評価）	達成度
1	本院の健全経営の維持	<p>市民病院は平成22年度より12年間黒字決算を継続しており、最大で38億円を超える累積欠損金があったが令和3年度で解消することができた。</p> <p>今後も効率的で安定した事業運営に努め、健全経営を維持していく。</p>	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率的な病床運営や患者数の確保、平均在院日数の短縮化をすすめるとともに、DPC係数の向上に努め、診療収入を確保する。 ・業務改善を実施するなどして、費用を削減させる。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒字決算を維持する。 		

2	本院と分院との連携強化	本院と分院との連携をさらに強化し、両院の患者数を確保する。 分院においては在宅医療を推進するとともに、地域包括ケア病床の役割をはたしていく。	【取組内容】 ・本院のMSW等と分院看護科等との間で情報共有を密に行い、スムーズな転院につなげる。 【成果指標】 ・分院の新規入院患者のうち、本院からの転院割合を引き続き50%以上とする。		
3	分院の経営改善と安定運営	分院化後黒字先行の経営を続けているものの、安定した運営状態とは言い難い。経営の改善を引き続き行い、安定経営をめざす。	【取組内容】 ・在宅復帰率、看護必要度、緊急時の受け入れなどの地域包括ケア病床の施設要件をクリアし、収入を確保する。 【成果指標】 ・黒字決算を維持する。		
4	診療収入の確保に向けた取組	新たな施設基準について研究を重ねるとともに、既に届け出ている施設基準についてチェックを行う。	【取組内容】 ・新たな施設基準の取得に向けて、医師等医療者と協議の場を持つほか、事務部内において検討を進める。 【成果指標】 ・DPC係数を向上させる。		
5	新たな施設整備に向けた取組	災害拠点病院要件となった非常用自家発電設備等や、老朽化・狭隘化による施設の整備に取り組む。	【取組内容】 ・非常用自家発電設備を含めた新棟の建設に向けて、具体的な内容の協議を進める。 【成果指標】 ・上期で諸条件を確定し、下期に基本設計に着手する。		

【達成度】

区分	達成の度合	定量的な判断基準	定性的な判断基準
A	目標を著しく上回る成果をもって達成	達成水準に対して150%以上の成果	期待を大幅に上回る成果
B	目標を上回る達成	達成水準に対して110%以上の成果	期待以上の成果を挙げた
C	目標通りに達成	達成水準通り(100%)の成果	ほぼ期待通りの成果を挙げた
D	目標を未達成	達成水準に対して100%未満 複数の成果目標に対して一部未達成	期待通りの成果に至らなかった
E	目標を著しく未達成	達成水準に対して50%未満	期待を大幅に下回る結果

3 所管部署が関与する庁内推進組織

推進組織の名称	役割等	所管事項（概要）	令和5年度取組内容	進捗状況（事務局課のみ記載）